

気候情報

2006年6月の日本の天候

日照が少ない（北日本、南西諸島）
各地で大雨、北陸地方は少雨

6月の天気概況

ほぼ全国的に、月前半は気温が低く、後半には高かった。月前半の低温は、寒冷低気圧やオホーツク海高気圧の影響を受けた北日本と、梅雨前線が停滞した南西諸島で顕著であった。前線活動は活発で、月前半には南西諸島を中心に、月後半は西日本を中心に、大雨がしばしば起き、土砂災害などが発生した。梅雨前線は南西諸島から日本列島南岸に位置することが多かったため、北陸地方では雨が少なく、1946年以降2番目に降水量が少なかった。上・中旬に寒冷低気圧やオホーツク海高気圧の影響を受けた北日本や、梅雨前線の影響で曇りや雨の日が続いた南西諸島で日照時間は少なくなった。

上旬：梅雨前線が日本の南岸から南西諸島付近に位置したことから、南西諸島では曇りや雨の日が続いた。旬半ばには、南海上に停滞した前線を低気圧が相次いで通過し、本州付近は高気圧が北に偏ったことやオホーツク海高気圧の影響で、東寄りの湿った気流が入り太平洋側を中心に曇りや雨の日が多かった。8日から9日にかけて、前線を伴った低気圧が西日本を通過し、西日本や東日本太平洋側、東北南部で梅雨入りした。旬平均気温は、北日本、東日本、南西諸島で低く、西日本では平年並であった。旬降水量は、北日本日本海側、東日本太平洋側では平年並、北日本太平洋側、南西諸島では多く、東日本日本海側、西日本日本海側、西日本太平洋側では少なかった。旬間日照時間は、北日本日本海側、東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側、南西諸島では少なく、北日本太平洋側、東日本日本海側では平年並であった。

中旬：上旬に続き南西諸島では梅雨前線の影響で曇りや雨の日が続いた。西日本では高気圧におおわれ、晴れて気温も高くなった。北日本太平洋側、東日本太平洋側では、東寄りの湿った気流の影響を受け、曇りの日が多かった。旬後半には低気圧の通過や前線の影響で東日本太平洋側、西日本太平洋側では大雨となった。北陸地方と東北北部は15日ごろ梅雨入りし、南西諸島は20日ごろ梅雨明けした。旬平均気温は、北日本では平年並、東日本、西日本では高く、南西諸島では低かった。旬降水量は、北日本日本海側では平年並、北日本太平洋側、東日本太平洋側、西日本太平洋側、南西諸島では多く、東日本日本海側、西日本日本海側では少なかった。旬間日照時間は、北日本日本海側、北日本太平洋側、東日本太平洋側、南西諸島では少なく、東日本日本海側では平年並、西日本日本海側、西日本太平洋側では多かった。

下旬：太平洋高気圧が強まり、前線が日本列島付近

に停滞し、西日本では大雨となった。東日本では曇りの日は多かったものの、降水量は少なかった。北日本では北海道を中心に、低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。旬平均気温は、高気圧が強まったため全国的に高かった。旬降水量は、北日本日本海側、西日本日本海側で多く、東日本、南西諸島では少なく、特に東日本日本海側、南西諸島で顕著であった。北日本太平洋側、西日本太平洋側では平年並であった。旬間日照時間は、北日本太平洋側、東日本太平洋側、南西諸島で多く、そのほかの地方では平年並であった。

6月の気候統計

月平均気温：東日本と西日本では高く平年を0.5°C程度上回ったところが多かった。北日本と南西諸島では平年並だった。

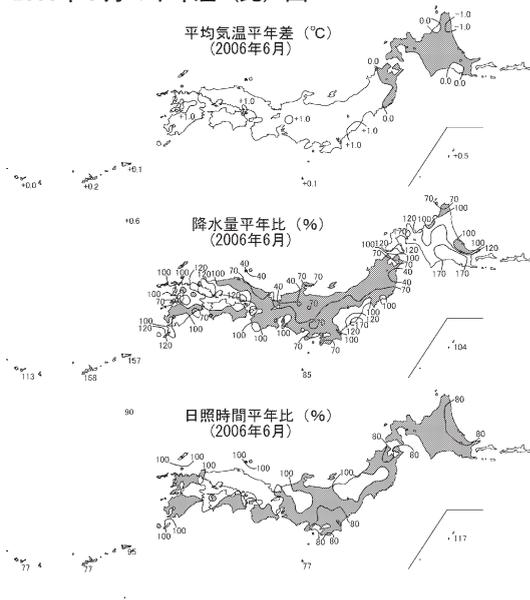
月降水量：北日本太平洋側と南西諸島で多く、釧路（北海道）では6月の月降水量の最大値を更新した。一方、東日本では少なく、特に北陸地方ではかなり少なかった。八戸（青森県）、福井では6月の月降水量の最小値を更新した。北日本日本海側と西日本では平年並だった。

月間日照時間：北日本と南西諸島で少なく、北日本日本海側ではかなり少なかった。東日本と西日本では平年並だった。（気象庁観測部統計室）

6月の記録（1位更新のみ）

- ・月降水量多い方から（mm）
釧路 282.5
- ・月降水量少ない方から（mm）
八戸 19.0 福井 32.0

2006年6月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。